

関東森林管理局入札等監視委員会審議概要

(Webサイト掲載日:平成31年2月13日)

開催日及び場所		平成31年1月21日(月) 関東森林管理局 2階小会議室		
委員		橋爪 健(弁護士(委員長)) 金井 孝純(公認会計士) 田島 聡子(ジャーナリスト)		
審議対象期間		平成30年7月1日～9月30日		
審議対象案件		180件	うち、1者応札案件 75件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件	
抽出案件		6件 (抽出率 3.3%)	うち、1者応札案件 3件 (抽出率 4.0%) 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件	
抽出案件内訳	工事	一般競争	2件	うち 1者応札 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件
		指名競争	公募型指名競争	該当なし
			工事希望型競争	該当なし
			その他の指名競争	該当なし
	随意契約	0件		
	業務	一般競争	1件	うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件
		指名競争	公募型競争	該当なし
			簡易公募型競争	該当なし
			その他の指名競争	該当なし
		随意契約	公募型プロポーザル	該当なし
			簡易公募型プロポーザル	該当なし
			標準型プロポーザル	該当なし
	その他の随意契約		0件	
	物品・役務等	一般競争	3件	うち、1者応札案件 2件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件
		指名競争	該当なし	
		随意契約(企画競争・公募)	該当なし	
随意契約(その他)		0件		
(特記事項) 高落札率又は低落札率の案件を抽出して審議				
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問		回答等	
	○(A005)過去に同様の工事を発注しているとのことだが、その際も今回と同様3者の入札があったのか。また、当時の落札業者は今回の落札業者と同じなのか。		○平成28年度に同様の工事を発注しており、その際も3者が入札し、今回の落札業者が落札している。	
	○(A005)入札業者により、各作業内容ごとの工事費内訳の金額に大きな差が出てくるものなのか。		○これまでの傾向として、事業に精通している業者であれば大体近い金額での競争となっているところであるが、例として、作業の下請を考えている場合は見積金額が上昇することが考えられるほか、積算に慣れていない業者は作業内容ごとの見積金額の幅が大きい傾向にある。	
	○(A005)予定価格は、過去の同様の工事の入札状況等を勘案し下げるのか。		○故意に下げることはできないが、労賃や資材単価等の変動により価格が変動することはある。	
	○(B003)総合評価落札方式の評価項目の中の、工事成績評定の評価点が低いのが、工事に影響がないのか。		○新規参入者等、国有林の受注実績がない場合には点数が低くなる場所であるが、地方公共団体発注の同種工事の受注実績はあり、その点は評価しているところ。	

<p>委員からの意見・質問、それに対する回答等</p>	<p>○(B003)事業発注の公告をしても応札がなく、契約が成立しない場合はどうするのか。 また、契約が成立しないようなケースは毎年あるのか。</p> <p>○(D010)落札業者は、他者に比べ見積り金額が高いが技術点の評価も高いため結果的に落札となっているが、技術点の評価としてどのような内容が他者に比べ高かったのか。</p> <p>○(D010)技術点の審査は誰が行うのか。</p> <p>○(D010)工事の場合は、労務単価や資材単価が公表されているが、建設コンサルタント業務の場合、公表されているものはあるのか。</p> <p>○(L002)本件は、総合評価落札方式を採用していないのか。</p> <p>○(L002)入札額に幅があるが、落札率が低すぎると契約を履行できない可能性が出てくるのではないのか。</p> <p>○(N001)本件は共同企業体が落札しているが、単独業者での履行は難しいということか。</p> <p>○(N001)事業地を分けて分割発注するようなことはないのか。</p> <p>○(O011)本件は入札参加は1者のみだが、このような事業は参加者が少ないのか。</p>	<p>○再度の入札公告を実施するほか、工期が確保できない状況であれば予算を繰越し翌年度に発注する等の対策を講じているところ。 また、ここ数年は入札不調のため契約が成立しないケースもあり、そういった場合は参加資格の地域を拡大するなど入札参加資格条件を緩和し入札参加者を増やす対策を講じているところ。 なお、入札では契約成立が難しい場合などは、不随契により契約を実施している。</p> <p>○各項目において、他者に比べ満遍なく高い評価であり、特に、技術提案の項目について高い評価となっている。</p> <p>○総合評価落札方式における評価項目については、各項目を証明する資料を競争参加者から提出を求めており、その内容を、直接事業発注に関与しない関東森林管理局内の職員により構成される技術審査会に諮り審査している。</p> <p>○各調査項目ごとの積算歩掛かりを公告時に公表しており、また、作業にかかる技術者の単価も公表されている。</p> <p>○事業内容及び予定価格を勘案し、総合評価落札方式ではなく、価格競争による入札とした。</p> <p>○本件は、入札率が低い場合の契約履行の確実性の調査を定める調査基準価格を設定していないため、結果的に落札率が低くなっている。ただし、契約条件等を承知した上での入札としているため、契約者には契約内容を確実に履行してもらうこととしている。</p> <p>○事業地が広範囲にわたること、作業種が多岐にわたることなどから共同企業体として入札に参加したものである。 また、本契約には期間を限定する作業種である下刈が含まれることから、作業人員を増やし対応するため共同企業体として参加した可能性もある。</p> <p>○分割発注をすると、発注案件ごとに間接経費が掛かり、事業費が掛かり増しとなるため一定量をまとめているところ。また一定程度の事業量を発注することにより林業事業体の育成・確保につながると考えているところ。</p> <p>○製品生産事業の事業者は少ないのが現状。</p>
<p>委員会による意見の具申又は勧告の内容</p>	<p>特になし</p>	

関東森林管理局入札等監視委員会苦情処理会議審議概要

開催日及び場所	平成31年1月21日（月） 関東森林管理局2階小会議室		
委員	橋爪 健（委員長・弁護士） 金井孝純（公認会計士） 田島聡子（ジャーナリスト）		
再苦情申立概要	申立日	件名	契約方式
	H . .		H . .
	内容等 該当なし		
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問		回答
委員会による意見の具申又は勧告の内容			